

## eラーニング概論 最終コメント

1. 「これは収穫だった」と思う事項を3つ

(1) 「相互コメントすることで学習が深化し、意欲が向上する」ということを実感した

eラーニング概論に限ったことではありませんが、4月から初めて本格的なeラーニングを体験し、多くの科目で相互コメントを行ってきました。その中で、「自分の考えをどう言葉にし、相手に伝わるような文章にするか」と、「相手の真意をさぐり、議論が発展するためには、どんな質問をすべきか」が大きな課題でした。試行錯誤するなかで、「そもそもなぜ相互コメントをするのだろうか?」という問いが浮かんできました。そこで、相互コメントが「ある科目」と「ない科目(ないタスク)」を比べて、相互コメントのメリットを考えるようになりました。

まず、相互コメントがある科目の方が、「自分の言葉で」表現することを強いられた分、何度もテキストを読み返したり、参考文献を引いたり、そもそも学習時間が多くなっていることに気づきました(参考文献は、先生方が提示するものだけでなく、他の学習者からの提示もありました)。また、他者の指摘で、自分の理解があいまいだったり、間違っていたりしたことや、考え方に偏りがあったことなどに気付く場面が何度もありました。そうすると、再度調べ、考え直して自分の言葉で表現することとなります。そして、他の学習者同士の書き込みを読み、自分とはまったく違った考えを知ることもしました。このような相互コメントの連続で、前期の半ばぐらいから、なんとなく「相互コメントで学びが深まっている」という手ごたえを感じるようになりました。それから益々「相手に伝わるような文章を書こう」「相手の思考が深まるような質問をしよう」と考えるようになりました。

また、たまに疲れた時もありましたが、途中でフェードアウトせず、学習意欲が継続できたのも、相互コメントの効果かもしれません。個人的には、「この部分が良いと思う」というコメントに励まされ、蛇足の1行になごまされました。

このように、相互コメントすることで学習が深化し、学習意欲も高まると実感したことで、今後、自分が設計するeラーニングシステムでも、うまく共同学習をとりいれる工夫をしたいと考えるようになりました。

(2) 「学習者制御は、学習者にとってつらいこともある」という経験ができた

eラーニング概論が他の科目と違う点に、タスク3~14まで一挙に公開された点があります。さらに、1つのタスクにつき、コンテンツは紙のテキストと動画の2本立てで用意されています。何を、いつ、どの順序で学習を進めてもよいですし、動画は見ても見なくても

いいので、かなり学習者の自由になっています。

私はインストラクショナル・デザイン（以下 ID）を終わらせてから eラーニング概論を学習する戦略にしたのですが、eラーニング概論の各タスクの締め切りが遅かったことと、「他の人もまだやっていない」などと思ってしまったことから、ID が終わった後に他科目を優先し、締め切り間近まで後回しにしてみました。終盤は、たまった課題をこなすことで精いっぱい、結構つらくなってしまいました。結局、期限内にすべてのタスクをパスしたものの、タスクの中のすべての課題を出来ず、コメントも最小限となってしまいました。もちろん、すべてを提出する必要はないかもしれませんが、後でやろうと思って結局やらなかった課題があり、浅い学習にとどまってしまった気がします。

教授システム学専攻の学生は、全員が成人ですし、学習意欲も非常に高く、学習者に制御を委ねても効果的な学習が可能だと思います。でも、今回の自分の失敗から、すべての eラーニング学習者が意欲的で自律的だとは限らず、そのような学習者にとっては「自由がづらい」こともあると痛感しました。< 蛇足：鈴木先生は計画的に学習できるかをみるために、わざとタスク 3~14 を一挙にオープンしたようにも思えます。 >

以上の経験で、今後自分が eラーニングシステムを設計する際に、学習者にどこまで委ねるか、足場作りを検討することの重要性を再確認できました。

### (3) 自分の学び方のスタイルを再検討できた

これも本講義に限らないことですが、日常の中でいかに学習時間を確保するか、どういうやり方で学ぶのかといったことを考えさせられました。(2)でも触れましたが、計画的に学習しないとその場しのぎの浅い学習になると、つくづく感じています。

また、日々の学習だけでなく、この最終コメントのように、全体的な振り返りも重要だと思います。まだ見逃している書き込みや、後回しにしていた参考文献・書籍などもありますので、後期開始までに、科目ごとに整理し、学習したことをまとめていこうと思います。

< 蛇足：学習計画の立案（スケジュール管理）や学習内容の整理（自分なりのノートのようなもの）を支援するシステムがほしくなりました。今回、MyWebCT をほとんど使わなかったのですが、そんな機能があるような気がします。使えば良かったかも。 >

## 2. ID 領域・コンピテンシー記述書にもとづく振り返り

eLF は、2005 年に受講済みであり、その後も本テキストやその他の ID 書籍、研究論文を読み、自学自習を進めたため、受講前と受講後で大きな伸びはなかったものの、「専門家基礎」の領域が少し高まったことがわかりました。受講前と受講後の変化よりも、2 年前と比較して「計画と分析」「設計と開発」のスキルが大きく伸びたことを確認できたのが収穫でした。

今後の課題として、「ニーズ分析」と、「プロジェクト管理」に関する学習が必要だと感じています。とくに「ニーズ分析」は2年前のeLF受講修了時に学習したいと思った内容なので、後期のIDなどで学習していきたいです。また、自分が目指しているのは「IDに基づいて、eラーニングシステムを開発できるようになること」なので、本専攻のID科目だけでなくIT科目も履修し、開発者としての専門性も高めていきたいと思っています。

これからも1年に1度ぐらいのペースで、コンピテンシーリストで自己の学びを振り返り、学習の指針にしたいと思います。

(コンピテンシーリストによる自己採点の詳細は、タスク14で提出したので省略)

### 3. 本講義全体についての感想やコメント

本講義は全く初めての内容というわけではなかったのですが、eLFの復習をしつつ、教授システム学専攻の学生という学習者の視点から、どのようなeラーニングシステムが望ましいかを常に考えていたように思います。つまり、生意気にも本専攻のeラーニングの分析をしていました(なんてことを書くと、分析書を提出させられそうな気もしますが)。

今後も、学習者の視点を大切にしながら、学習を進めていきたいです。